第４次熱田区地域福祉活動計画＆私立大学研究ブランディング事業（名古屋学院大学）

つながりあったかいぎ

第７回

～ぬくといつながりのあるまちの育て方を考えよう～

誌上フォーラム

コロナ禍と地域福祉活動

「つながりあったかいぎ」は、
熱田区の福祉や
コミュニティのあり方について、
みんなで考える会議です。

（平成30年12月 撮影）

＜お問い合わせ＞
社会福祉法人 名古屋市熱田区社会福祉協議会
〒456-0031
名古屋市熱田区神宮三丁目1番15号 区役所等複合施設6階
TEL：052（671）2875　FAX：052（671）4019
URL：http://www.atuta-shakyo.jp/
E-mail：atutaVC@nagoya-shakyo.or.jp

この報告は、第4次熱田区地域福祉活動計画および名古屋学院大学が選定された文部科学省「私立大学研究ブランディング事業（2018年度採択）」におけるプロジェクト「地域コミュニティのチカラを活性化させるCBPRの展開」の一環として制作したものです。

掲載されてる所属先、役職名等については令和3年3月31日時点のものです。

ごあいさつ

○第４次熱田区地域福祉活動計画推進会議リーダー
中田素生

「ぬくといつながりのあるまち」を目指して、第４次計画がやっと軌道に乗りかけた頃、新型コロナウイルス感染症という予期せぬ逆風に襲われてしまいました。三密回避、ステイホームと、地域活動を積極的にできない状況が続いています。しかし、一方でこのコロナ禍は、私たちにとって、地域での暮らしや生きがいなどについて考えたり、働き方の改革につながったりと、ある一面では、得がたい機会になったと言えるのではないでしょうか。新型コロナウイルス感染症ワクチンが、天然痘を駆逐した「種痘」のように、コロナ禍を断ち切ってくれることを願いながら、この誌上（紙上）版「つながりあったかいぎ」を皆さまにお届けしたいと思います。

第４次熱田区地域福祉活動計画について

地域福祉活動計画は、地域福祉計画等の行政計画と一体となって、わたしたちの安心・安全で幸せな生活を、地域がもつチカラで実現させるための将来設計図です。

第４次計画の目標は、「過度な負担がかからない、でも、いざという時は助けとなるゆるいつながり」、題して、「ぬくとい（温とい）つながり」のある街をつくることです。第４次計画では、地域の社会資源を「育む」「活かす」「組み合わせる」という、３つのアプローチによってその実現を目指します。

「育む」に分類される「つながりあったかいぎ」は、地域の課題について情報を共有し、参加者である地域住民が主体となってその解決に取り組む「地域課題解決会議」として開催するものです。

テーマ「専門職から見た新型コロナウイルス感染の影響」

コロナ禍という特殊な状況の中で戸惑いながら働き続けた１年間。専門職のお２人に振り返ってもらいました。

○熱田保健センター　保健予防課主査　伊神智代さん

新型コロナウイルス感染症が流行してからは、その対応に追われる日々でした。特に最初の頃は、問い合わせが殺到し、住民の方々の疑問や不安の解消に必死で対応しました。新型コロナウイルスに感染すると、高齢者の方は重症化し、療養のため虚弱化が進む場合もあるので心配です。また、乳幼児健診を中止していましたが、これにより病気や発育発達遅れ等の発見が遅れたり、保育者の育児不安にもつながったりする恐れがあるため、スタッフで協議し、万全の感染対策をとって再開しています。

様々な講座等が縮小や中止となり、交流の機会も減っています。ただ、自粛ばかりで自宅に引きこもってしまうと、身体機能の低下が懸念されます。マスクや手洗い、三密や飲食を伴う会合の回避などの感染予防に努めながら、活動することも重要だと考えます。

これからはウィズコロナです。早くコロナ禍が去り、住民の方々の笑顔をもっと見ることができるようになる日を待ち望んでいます。

○熱田区いきいき支援センター　センター長　長嶋寛子さん

最初の緊急事態宣言が４月に出てから１か月間くらいは、相談件数自体が減りました。おそらく新型コロナウイルスに対する情報が無く、みなさん「怖い」という思いから出歩かなかったのだと思います。

介護保険制度については、通常のサービスはこのコロナ禍でも使えたのですが、一般介護予防事業の対象となる方は、給食会、サロン、保健センター主催の教室がすべて中止となってしまったため、大変だったのではと思います。センターの職員から、「以前は自力で歩くことができたのに、杖を使うようになった方もいる」と聞いています。

ご高齢の方は、若い人たちに比べるとインターネットの活用が不得手な傾向がありますので、直に顔を合わせてお話ができたほうがいいと思います。その意味でも、ワクチンが普及して、早く皆さんが自由に出歩くことができるようになる日がくることを願っています。

テーマ「住民が感じたコロナ禍の１年」

いわゆる「With コロナ」「After コロナ」時代における地域福祉活動のあり方について検討するために、第４次計画の策定段階から関わるみなさんに、住民代表として、コロナ禍での生活や地域の様子、地域活動についてお話を伺いました。

○熱田区身体障害者福祉協会　会長　松岡信男さん

新型コロナウイルス感染予防のために家に居ることが多くなりました。協会関係の会議もほとんど中止になり、通院など最低限の生活上の外出になりました。ただ私は盲導犬ユーザーですのでガイドヘルパーさんが必要な方とは違って、まだ外出できたほうかもしれません。一方で健康維持のため散歩は欠かさず毎日しております。盲導犬のシャンプーについては、盲導犬協会から利用は遠慮してもらうよう言われてましたので、自宅でしなければならず大変でした。

新型コロナウイルス関係の話などの世の中の動きはテレビ・ラジオからニュースを聞いて把握しています。私もオンラインを活用することはできます。先日もオンライン会議に参加しました。見えなくても耳が聞こえれば会議はできます。あと視覚障がい者の友人に聞くと、町で声をかけられることが減ったと聞きます。マスクをして適切な距離があれば声かけしてもらって構わないと思います。たとえコロナ禍でも人との交流がなるべく減らないといいなと思います。

○高蔵民生委員児童委員協議会　会長　脇田信二さん

コロナ禍で、お独り暮らしの高齢者や高齢者だけの世帯が心配でした。皆さん家に閉じこもってばかりではいられないので、散歩するなど健康維持に努めておられた方もいらっしゃいましたが、外出の機会が少ないと見かけることも少なくなり、声かけもできず、知らない間に体調が悪くなってしまうということもあります。民生委員には戸別訪問を自粛するよう通達があったので、訪問活動ができず、様子を把握するのに苦労しました。また私自身も自分の住む団地の集会場が使用できないため活動ができませんでした。これからワクチン接種も進んでいくと思いますが、早く新型コロナウイルスが収束してほしいと思います。

○生活介護事業所シンフォニー　管理者　竹田篤史さん

コロナ禍においては、「障がい者への理解」というものの大事さを一層肌で感じた１年でした。知的障がい者の方はマスクをし続けるということが難しく、公共交通機関で着用を促されることがあったとご家族から聞きました。

新型コロナウイルスの感染が収束しても、オンラインの活用をはじめ、新しい生活様式といったような部分は残るような気がしています。オンラインの活用で言えば、まだ、いわゆる「ガラケー」を使っている方も多く、情報の伝達は「一斉送信」とはいきません。とはいえ、離れた場所同志でもボッチャを行うなど世の中にはいろいろな取り組みをしている人たちがいますので、やり方を工夫しながら楽しく充実した日々を送れるようにできたらいいなと思っています。

＜お話を伺って＞

熱田区社会福祉協議会　次長代理　加納大也

お三方には、高齢、障がいの分野や住民の代表として語っていただきました。オンラインの活用など求められ、この１年は毎日の生活がご苦労が多かったかと思いきや、松岡さんはオンラインでの会議も数をこなし、閉じこもりがちであったにせよ、こちらが思うほどストレスなく生活していたようにも感じました。意外であったというのが正直なところです。

まだしばらく新型コロナウイルス感染の影響は続きますが、この大変な時期こそ、何か新しいアイデアを出すよい機会なのかもしれません。

活動報告

第４次計画では、「ぬくといつながり」のあるまちの実現を目指して、さまざまなプロジェクトを展開しています。ここでは、2019 年度および 2020 年度に取り組んだ主な活動を報告します。

＜2019 年度＞

○ボッチャで遊ぼう
～みんなで学ぶ　地域共生～（8 月 26 日）

中学生、障がいのある方、地域の方が参加し、ボッチャ等で交流を深めるなかで、共生社会について学びました。

○ひびの健やかフェスティバル（11 月 17 日）

普段熱田区内で交流のある人々だけでなく、交流のない人々もつながり、地域の活性化や健康への関心を高めることを目的としたイベントを、特別養護老人ホームひびのファミリアで開催しました。

○地域サロン支援（通年, 全５回）

大規模集合住宅における孤立死防止対策の一環として、名古屋学院大学現代社会学部の学生たちが、市営南熱田荘サロンを訪問し、サロン活動をサポートしました。

○ぬくといつながりマップ制作プロジェクト

（通年, 不定期開催）

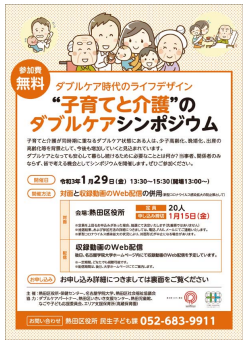
誰もがぬくといつながりをもてるように、「困っている人と力になれる人」「活動したい人とできる場所」のマッチングを助けるマップ制作プロジェクトを立ち上げました。現在は、「育児と介護のダブルケア版」を制作中です。

＜2020 年度＞

○誰もが暮らしやすい街づくりプロジェクト

（9 月～ 21 年 1 月 , 計 3 回）

地域の担い手を育成するために、福祉教育の一環として、名古屋学院大学現代社会学部の学生たちと地域住民が、ともに地域を回り、ともに地域について考える講義をおこないました。2020 年度は、熱田区身体障害者福祉協会の松岡さんと竹内さんにご協力いただき、視覚障がいについて学び、ガイドヘルパーの手解きもしていただきました。



○“子育てと介護”のダブルケアシンポジウム（Web 配信）

子育てと介護が同時期に重なるダブルケア状態になっても、自分らしく暮らし続けるために必要なことを考える機会として、熱田区役所民生子ども課・保健センターおよび名古屋学院大学ならびに熱田区社会福祉協議会主催によるシンポジウムを Web 配信しました。

※Web サイト「熱田ブランド＋（プラス）」から一定期間ご視聴いただけます。

URL（https://www.ngu.jp/atsuta-brand-plus/introduction/dublecaresympo20210129/）

＜ここまでの計画を振り返って＞　名古屋学院大学　准教授　山下匡将

コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、「バリアフリーな熱田区史跡めぐりウォーキングマップづくり」など、思わずワクワクしてしまうような多くの企画が中止となりました。しかし、第４次計画の特長は「プロジェクト型」にあります。地域のみなさんが「今すべき」「今できる」「今やりたい」と思ったことをすぐ実行に移せる体制づくりをねらってのことでしたが、コロナ禍では、状況の変化に柔軟かつ迅速に対応できるという長所が発揮されています。人との距離を保つことが求められる今だからこそ、人とのつながりまで断たれてしまわないように、引き続き、取り組んでいきます。